

会報

2015年1号

目次:

会長挨拶	1
大会議事録	3
オーストラレーシア/ オセアニア地域	
今後4年間の目標	4
アフリカ地域	
今後4年間の目標	5
北アメリカ地域	
今後4年間の目標	6
ヨーロッパ地域	
今後4年間の目標	7
バルカン地域	
今後4年間の目標	8
ラテンアメリカ地域	
今後4年間の目標	9
トランスコーカサス地域	
今後4年間の目標	10
アジア地域	
今後4年間の目標	11
第17回世界ろう者会議	
大会決議	12
WASLI-FIT	
覚書	15
日本からの報告	16

会長挨拶



WASLI会員、及び支援者の皆様

トルコ、イスタンブールのWASLI2015大会にご尽力いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。
56か国から295名の参加者とともに、大会は素晴らしい成功を収めました。WASLI大会実行委員長ミシェル・アシュリー氏とその委員の方々のお陰で、5日間、活気溢れる環境で素晴らしい学びを得ることができました。ありがとうございました。

パリ開催のWASLI 2019大会への参加準備に早すぎるということはありません。世界有数の刺激的な都市での大会です。是非参加しましょう！

総会での選挙の後、新理事が選出され、さっそく活動を始めています。

3役

・会長	デブラ・ラッセル	(カナダ)
・副会長	ジョゼ・エドニルソン	(ブラジル)
・事務局	イザベル・ハイリック	(ベルギー)
・会計	スーズン・エマーソン	(オーストラリア)

各地域代表

・アフリカ	ナターシャ・マリコ	(南アフリカ)
・アジア	ウメモト・エツコ	(日本)
・南洋州オセアニア	アンジェラ・マレイ	(ニュージーランド)
・バルカン	デサンカ・ジジック	(セルビア)
・ヨーロッパ	クリストファー・ストーン	(イギリス)
・北アメリカ	リズ・メンドーサ	(アメリカ)
・ラテンアメリカ/ カリビアン	イザベル・レイ	(ペルー)
・トランスコーカサス	アンナ・コモロヴァ	(ロシア)
	イーゴル・ボンダレンコ	(ウクライナ)

他役員

- | | | |
|-------------|------------|--------|
| ・ろう通訳アドバイザー | ナイジェル・ハワード | (カナダ) |
| ・会報編集者 | ジョルディ・フェッリ | (スペイン) |
| ・会員コーディネータ | ディー・コリンズ | (アメリカ) |

各国会員の皆様のご指名により選出されました方々には、WASLI 活動推進のため貴重なお時間をいただき感謝いたします。今後 4 年間皆様と共に活動し、多くを学ばせていただけると楽しみにしています。今後 4 年間につきましては、役員、及び各地域代表が 2011 年—2015 年の活動をもとに戦略計画を作成し、各地域の新目標を掲げます。地域また組織全体計画に役立つアイデアをお持ちの方は是非ご連絡をお願いします。

WFD と WASLI は、国連国際手話認定プロセス（WFD と WASLI がそれにより国際手話通訳者を選抜できるプロセス）を完成させるため、親密に活動を続けていきます。これは WFD と WASLI が望むレベルのサービスを提供するために必要な技術、知識、経験の明確な基準を作ることになります。10 月にはドバイで会長コリン・アレン氏と面会して、新たな目標を設定し作業グループを立ち上げます。私たちは講演者として会議に招待されての出席ですので、WASLI の費用を使うことなく会うことができます。

WASLI2015 大会で、私たちは翻訳者通訳者連盟（FIT）との覚書に署名しました。我々の大会に積極的に参加してくださった FIT 会長ヘンリー・リュー氏の協力精神に感謝申し上げます。

我々が意見の一致を見た活動のひとつは、紛争地域における通訳者の活動を支援することです。そこには音声通訳者も手話通訳者も関わっています。フェイスブックの記事でご覧いただいたかもしれませんが、我々がこの問題を FIT と AICC とともに国連に提起した様子が載っています。この地域の我々の協力活動については最新状況にご注目ください。

今期が始まるに際し、会長である私、及び理事会への皆様の寛大なるご協力に感謝申し上げます。通訳の専門性の認知度向上のため職務を共有し今後 4 年間の目標達成を期待しつつ、皆様が WASLI に価値を見出して頂けるよう願っています。

私を代表とさせていただき皆様のご信頼に感謝申し上げます。

ご質問・ご意見等ございましたら、president.wasli@gmail.com 迄いつでもご連絡お願い致します。皆様がお国で地域や国のろう団体と協力しながら、通訳改善に向けより活躍されますよう願っております。

敬具

WASLI 会長

デブラ・ラッセル



大会議事録

世界会議の準備にはたくさんの人手、時間、エネルギー、資源が必要です。そうしてトルコ、イスタンブールのWASLI大会は成功をおさめました。学術委員会の委員として私たちは、多くの皆様同様、大会開始前は少し緊張気味でしたが、幸いひとたび大会が始まると、職務の成果を分かち合い、心揺さぶられる講義とポスター発表などを、大いに楽しみました。そして、大会が終わった時には再び活動開始の時となっていました。

WASLIはこの大会が同僚や友人と過ごした時間や面白かった講義の微かな記憶となってしまふことを望んではいません。私達は確かな、形に残る何かを皆様に提供したいと思っています。大会議事録です。

WASLI 2015 学術委員会委員長として、トルコ、イスタンブール大会の議事録、論文集を責任持って編集し2016年3月の発行を目指します。

WASLI 2015 学術委員会
委員長・編集者
イザベル・ハイリック/スーザン・エンリッチ
wasli.scientific2015@gmail.com



オーストラレーシア／オセアニア地域

今後 4 年間の目標

1. 前年からの戦略計画を改訂し地域のために長期目標を再設定し構想を明確にする
2. 地域一体となって全ての連絡先を持ち寄る。できる限り多くの国からのサブ代表を集める。ソーシャルメディアを活用する
3. 情報や資源の共有と協力のため、コミュニケーション手段を広げる。募金計画と募金目標額達成に協力する
4. 2018 年フィジーで開催される初の地域会議を成功させる

オーストラレーシア/オセアニア代表 アンジェラ・マレイ
austoceania.wasli@gmail.com

アフリカ地域 今後4年間の目標



1. アフリカ手話通訳者連盟の創立
2. 協会がまだ設立されていない国々での協会設立
3. 地域会議や研修の開催
4. 通訳者教育プログラム促進及び通訳者がこれらのプログラムを確立できるように促す

アフリカ地域代表 ナターシャ・マリコ
wasliarr@gmail.com

北アメリカ地域 今後4年間の目標

1. オンラインまたは、顔を合わせての会議を行うために地域業務スケジュールを立てる。情報を簡単に共有でき、他の組織に伝達可能なシステムを創設する
2. ソーシャルメディア運動で、公式な手話通訳者養成プログラムの設立に取り組んでいるメキシコと2019年パリ開催の大会に参加する代表者を支援するための資金を募る
3. 特にメキシコのために研修を提供、宿泊を提供してボランティア講師を依頼する。カリキュラム共有のために他の通訳者教育プログラムとネットワークで繋がりを持つ
4. 新しいWASLIろう通訳者アドバイザーと共に活動し、ろう通訳者の参加場面を増やす



北アメリカ代表 リズ・メンドーサ
northamerica.wasli@gmail.com

ヨーロッパ地域 今後4年間の目標

1. ヨーロッパの最低限の基準は各国に組織があり、倫理綱領を持ち、地域社会に尽くすこと
 1. 基本的開発資源キット
 1. 組織的発展のための研修資料の制定方法
 2. efsliにWASLI/バルカン地域と協力できる開発員がいるかもしれない
 3. EUまたは欧州評議会での資金入手の可能性を確認
 1. 3年プロジェクトの確立
 2. 3年後評価
2. 上記を達成するためにも既に設立されている協会のため、その組織力の構築を図る
3. WASLIの知名度をより確かなものにし、ヨーロッパの会員拡大と大会参加者を増やすために情報を広く発信する
4. プログラムの開発
 - 1 専門家ジュニアのため様々なレベルに合わせて賄える費用プログラムプログラムをネットワーク化する。
 - 2 ネットワークプログラムの機会創出



ヨーロッパ代表 クリストファー・ストーン

europa.wasli@gmail.com



バルカン地域 今後4年間の目標

- 1 WASLIにおいてバルカン地域を構成しているのはどの国なのかを定める。これは必要な資源や活動範囲を知るために大切な第一歩である。
次に通訳者協会や協会未設立の国の通訳者とのコミュニケーションを図り、促進し、フェイスブックグループなどのソーシャルメディアを利用してバルカン諸国の非公式ネットワークを作る。
- 2 実態調査をもとに通訳者協会を持たない国々の通訳者に向け通訳者協会設立のため協力する。
また、既存の通訳者協会にも資源共有・体験交流・プレゼンテーション・現地訪問などを通して協力する。
バルカン地域の通訳者がWASLI、EFSLIの大会や研修に参加できるよう情報提供及び技術サポートをする。
- 3 国団体の組織力の構築・通訳者の専門性向上への支援・手話通訳業界の発展のため、WASLIヨーロッパ地域とバルカン諸国地域間の協力体制を強化する。
- 4 地域の国々でWASLIのビジョンと使命を浸透させ、国組織がWASLIへ加入するよう働きかける

バルカン諸国代表 デサンカ・ジジック
balkans.wasli@gmail.com

ラテンアメリカ地域 今後4年間の目標

1. 引き続きラテンアメリカ及びカリビアンでジョゼ・エドニルソン・ジュニアが活躍。通訳専門職がハイレベルに到達するよう互いにサポートしながら、地域間のチームワーク促進を続行。地域の2つのWASLI国会員代表が知識を拡大できるよう、技術ツール活用プロジェクトを続行。
2. 地域の通訳者が関わるために必要な支援をしながら、パナマでの第3回ラテンアメリカ通訳者会議実現の調整及び協力。
3. ラテンアメリカとカリビアンは南アメリカ諸国にとっての中心である。中央アメリカとカリビアン地域を今後4年間でWFDと同様の地域構造にすることを提案。この提案を達成するために更なる議論を重ねられるよう、中央アメリカとカリビアンを一つの地域として内部的に構成する。
4. 地域において新たに3つの通訳者協会を創設。
通訳者協会とろうあ協会の絆を強化する。

ラテンアメリカ代表 イザベル・レイ latinamerica.wasli@gmail.com



トランスコーカサス地域 今後4年間の目標

1. 地域全体の手話通訳者に関する情報収集、人数、有用性、養成、勤務条件、労働報酬など。
2. 手話通訳者全国組織設立とその組織活動の発展に協力。
3. 手話通訳者とその協会でWASLI会員増員運動。
4. WASLI会報、その他メディア、ソーシャルネットワークで手話通訳者や通訳者協会の活動を報道。
5. 通訳者教育、専門的発展、通訳者の役割や職務、またヨーロッパや国際基準に従う業務上の規則についての助言。

トランスコーカサス 代表
イゴール ボンダレンコ/アンナ コマロヴァ
transcaucasia.wasli@gmail.com

アジア地域 今後4年間の目標

1. アジア各国とのネットワークの更なる構築

ネットワークを効果的に行うため、アジア地域を2～3つのブロックに分け、それぞれ国会員に担当してもらおう。Facebook を利用して、情報交換を行う。

2. 手話通訳者の組織化への支援

アジアでは手話通訳者の組織がある国はまだまだ少ない。集団があるからこそ手話通訳のあり方や通訳技術を磨くことができる。また、ろう団体との共同も通訳者集団があればよりスムーズに進められるので、国レベルかどうかは別としてまず集団作りを支援する。

3. アジア手話通訳者会議の開催

顔を合わせて話し合いができる大事な機会。以下のように進める。

2016年第7回アジア会議（シンガポール）の開催・運営

2017年第8回アジア会議の開催・運営

2018年第9回アジア会議の開催・運営

2019年第5回 WASLI 会議へのアジア地域参加国が増加するよう様々な支援活動。

4. WASLI 加盟国の拡大

WASLI 会員への呼びかけを積極的に行う。



WASLI アジア地域理事

梅本悦子

asiamonica. wasli@gmail.com

WFD



第17回WFD世界ろう者会議 大会決議

2015年7月28日～8月1日 トルコ イスタンブール

2015年7月28日～8月1日 トルコ イスタンブールにて開催された第17回WFD世界ろう者会議において、世界ろう連盟（WFD）、その加盟国と97カ国からの参加者1312名は、

国連の事務総長潘基文氏が会議に向けてのメッセージの中で、「障がいをもつ人間の多様性の一部として認識することが、障がいをもつ人々の能力を理解するのに必要不可欠である」という部分を強調されたことを想起しながら、

ろう者は人間の多様性にユニークな文化と言語で貢献するきわめて重要な人類の一部であることを**強く主張する**

世界中のろうコミュニティで多様性を強化することに集団で献身的に取り組むことを**宣言する**。

これらの目的達成を促進するため、第17回世界ろう者会議は

世界各国の政府が国連障害者権利条約の原則を固く順守することを**要請する**。

他のすべての人権条約同様、国連障害者権利条約に謳われている人権の完全確保促進義務を**再確認する**。

国連と国際パートナーに対して、障害者権利委員会へのパラレル報告書作成を含む、人権報告過程にろう者が完全に参加できる対策を講じることを**求める**。

世界のあちこちで多数の手話が危険にさらされていることに注目しつつ、手話は言語の多様性の一つであることを**認識する**

ろう・盲ろう児、また、ろう・盲ろう青年が人権として言語権及び文化権を有することを彼らの両親に気づかせることの重要性を**認識する**

国連、各政府、及び調査協力者に対し、ろう児の教育における成果の実践例を数値情報とともに収集、公表しながら、あらゆる児童教育における手話の複合的恩恵を理解し、促進することを**求める**

国連障害者権利条約の第 24 条に則り、ろう者が、高等教育、労働力、政治や市民生活など全ての側面で社会に完全参加する手段として、バイリンガル教育促進を含むろう児の教育権を強化することを目的とした、世界レベル、国家レベルでの対策の必要性を**強調する**。

教員養成時にろう者を中心に置いた教授法、視覚的教授法の促進、ろう・盲ろう児、及びろう・盲ろう青年の教育調査への配慮を**求める**。

社会のあらゆる側面で、少数民族、重複障害を持つろう者、ろう者のレスビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーコミュニティ、ろう移民、そして農村部のろう者などのろう者コミュニティにおける少数派や女性のため公平なアクセスの必要性を**強く主張する**

世界中のろう及び、盲ろう者がメンタルヘルス、カウンセリングサービス、保健教育（特定地域の女性健康問題などの）などを含めたヘルスケアに、特に手話でアクセスできるような対策を講ずることを**促す**。

国連障害者権利条約第 25 条に則って、特に遠隔地や孤立した地域に住んでいるろう者や盲ろう者が最高水準のヘルスケアを享受する権利を**擁護する**。

新規及び、現存のすべての情報通信技術は、社会交流や、緊急対応、労働や教育など生活のあらゆる側面において大切な役割を果たせる技術であることに注目し、ろう者、盲ろう者が自由でバリアフリーな生活を享受できるようユニバーサルデザインに組み込まれるべきであると**断言する**

国連は情報を照合・普及し、世界中のろう者社会、特に南半球のろう者がアクセスできる、ろう者に関する独立した中立的な調査を奨励すべきであることを**特筆する**

世界中のろう者との協働における多くの優れた実践例を**注視し**、全国ろうあ協会などの団体、非政府組織、教育機関、国際機関などに、その素晴らしい実践例の普及を**求める**。

国内外の支援機関に様々な開発プロジェクトにろう者を特別起用することを**求める**。プロジェクトが進行中の国のろう者は、国際会議参加などあらゆる場面に関与することとなる。

第17回世界ろう者会議は、

これらの目標を完全に達成するために、世界ろう連盟、ろう者の全国組織、WFD 地域事務局、国際機関、非政府組織、国連、国連加盟国、関連機関との協力を責任を持って取り組むことを宣言する。



WASLI-FIT 覚書

手話は、積極的に手話通訳を利用する顧客をもち、地元や国内各地域の手話通訳専門職とよく協力している FIT 団体会員の間で、長い間認知されてきました。

2015 年は、FIT 会長 ヘンリー・リュー氏をイスタンブールの第 4 回 WASLI 大会へお招きし、専門職の手話通訳者、翻訳者、専門用語学者と音声言語通訳者、翻訳者、専門用語学者とが協力に向けて包括的なアプローチを始めた年となりました。

ヨーロッパとアジアの合流点ボスポラス海峡で開催された会議で、リュー会長は WASLI 会長デブラ・ラッセル教授、及び代表理事と対談を行い、共通の関心分野と協力に向けたプロジェクトを明らかにしました。また、FIT 会長は世界ろう連盟 (WFD) 会長のコリンアレン氏とも面談をしました。

2 つの国際組織間の協力に向けた誓約として、WASLI と FIT の間で覚書 (MoU) に署名が行われ、全会の賞賛を浴びました。



日本からの報告

「第48回全国手話通訳問題研究集会～サマーフォーラム in みえ」開催！

私たち全通研は、毎年夏に全日ろう連と共催で全国集会を開いています。2015年は、8月21日（金）から23日（日）の3日間、三重県鈴鹿市の鈴鹿医療大学で開催し、全国から手話通訳者・ろう者・手話学習者など1,044人が参加しました。

これまで夏は講座形式、冬は討論集会と年に2回全国集会を開いていましたが、今年から統合した形で4つの講座と8つの分科会をもちました。

まず、実行委員長から歓迎のあいさつがあり、主催者あいさつがありました。もちろん全日ろう連の石野富志三郎理事長と全通研の石川芳郎会長の2人です。

来賓祝辞は内閣府、厚生労働大臣、文部科学大臣、三重県知事、鈴鹿市長です。以前は手話を使う人はほとんどいなかったのですが、今はほぼ全員自分の名前と「おめでとう」は手話で表現します。

今年の文部科学省特別支援教育調査官は祝辞すべてを手話で行いました。ろう学校で手話が禁止されていた時代を思うと、ほんとうにもものすごい変化です。





講座のテーマは、手話やろう運動の歴史、地域づくり、福祉に関する内容です。講師のみなさんから話を聞きました。また、分科会は手話通訳者の仕事、聴覚障害のある人々の暮らし、仲間づくり、政策や制度の課題と幅広く、レポートや経験をもとに仲間たちと討論しました。

夜は交流パーティーで盛り上がり、販売ブースでは書籍や手作り品が売られ、元気な手話でのおしゃべりが交わされていました。

もう一つ、今年の特長は「N-Action」という名前で活動を開始した、若い世代が集まったことです。35～40歳以下の青年が交流し、それぞれの思いや悩み、これからどんな活動をしていきたいのかなど、意見交換がされました。これから若いメンバーを増やしていくことが大きな課題となっています。

閉会集会では、3日間の集会の様子がスライドショーで紹介されました。この集会のため長期間にわたって会議や準備、調整など担当した三重集会実行委員のみなさんに、大きな拍手が送られました。来年は神奈川県で開催されます。みなさんも参加してみてもいいのではないでしょうか。

報告：WASLI アジア地域理事
NRASLI 国際部長 梅本悦子